



## 火山防災対策の充実強化と 災害復旧工事の早期竣工を 国に陳情

11月16日、危機管理建設委員長として、本県にて発生した「南木曾町の土石流災害」「御岳山噴火災害」「神城断層地震災害」に関わる要望を、国土交通省と河野太郎国務大臣に陳情して来ました。



## 長野県の道路事業に関する要望書を 国土交通省、財務省に提出

11月25日、西沢県議会議長を会長とする長野県道路整備期成同盟会の副会長として、町村長及び県職員の方々と、災害時でも孤立しない道路整備や適時適切な修繕、通学路の安全対策の推進等を求め、陳情に行っていました。

### 長野県の「発展」と 小諸のさらなる「飛躍」を目指して!

新年明けましておめでとうございます。皆様には、御健康で希望に満ちた新春を迎えられましたこととお喜び申し上げます。昨年は、皆様の御支援を賜りまして、二期目長野県議会に送り出させていただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げます。

国の内外では、TPP問題や消費税引き上げなど大きな変革の時を迎えております。地方行政におきましても、少子高齢化が進み、地域社会の維持、活性化に向けた取り組みや、情報社会の発展で未だかつて経験したことのない新たな事態に日々直面し、まさに行政の真価が問われている時代と言っても過言ではありません。小諸市におきましては、若年層の流失や人口構成の高齢化、空き家問題など市勢の発展を図る上で大きな隘路となっておりますが、新市庁舎、ステラホール、新図書館など新たな施設が中心地区に集中し、全国のモデル的地域であるコンパクトシティを目指し、魅力ある、活力溢れた地域社会を実現することが何よりも肝要であると思っております。私たちの故郷小諸は、これからの本町の街づくりへのスタートです。私も、以前にも増して小諸の魅力を高め、皆さんと「街づくり」の連携の中で「伸び行く小諸」そして「発展し続ける輝く街」の実現を目指し、年頭に当たり気持ちも新たに強く決意をしたところでございます。

皆様方が、今年も明るく健やかに、益々の御活躍と御健勝を心から御祈念を申し上げます。どうぞ、本年もよろしくお願いたします。

【阿部知事】スイスの観光地では、「お金を使ってもらうための仕組み」がかなり徹底されている。単に観光という観点だけではなく、地域づくり全体と一体となった観光地域づくりを進めていくことが、極めて重要であると考えている。長野県も様々な観光地がありますが、例えば上高地と野沢温泉と軽井沢。それぞれマーケットが違う部分があると思うが、そうしたことを分析しながら、観光行政を進めていくことが必要。こうしたことを進める中で、世界水準の山岳高原観光地を長野県から発信していきたい。今後さらに交流を深め、両国の先進的な取り組みを学び、長野県の林業・観光に活かしていきたいと思っている。

※詳細は、県議会ホームページをご覧ください。

### 11月定例会 一般質問

## 議 会 報 告

抜粋

#### 林業と山岳観光、 地域づくりと、一体的な 観光地域づくりに向けて

【山岸】知事は、林業等の分野で先進的な取り組みを展開しているオーストリアと、登山鉄道やロープウェイなどの山岳観光の先進地であるスイスを訪問されたが、その成果を今後の長野県の林業、山岳観光にどのように活かしていくのか?

【阿部知事】オーストリアの林業は、高い密度の路網の整備、高性能林業機械の活用、優れた技術者の育成と、極めて高い生産性を実現している。他にも大規模な木造建築、木質バイオマスなど、木材を中心とした地域経済の循環が進められていることを実感。オーストリア農林環境水資源管理大臣と技術交流に関する覚書を締結したため、今後、林業や木質バイオマス関係の技術者の相互訪問あるいは先進技術の情報交換等、より具体的、実践的な交流を進めていきたい。

## 佐久建設事務所・小諸市合同 現地調査

諸区県道小諸上田線(マツ入回)歩道改良について  
上の平区県道八幡小諸線路肩の拡幅側溝の改良について  
与良区蛇堀川左岸の急傾斜地対策について  
新町区栃木川急傾斜地対策について  
四ツ谷区国道141線歩道の新設について

## Vol.2 人口減少と少子化問題について

### 少子化と出生数の減少

●日本の出生率は、1.42(2014年)と低迷状況が続いています。フランスでは、1.66(1993年)を2.00(2008年)に、スウェーデンは1.50(1999年)を1.99(2010年)に国家的プロジェクトによって回復しています。このように、国全体が危機感を共有し、出生率回復策を実行することが急務の課題です。

●出産世代女性の減少も、出生数減少の大きな要因です。1970年代以後、晩婚化が著しく進み、さらに非婚化(近年では男性60%弱、女性は45%前後)も進んでいます。この主因は、家庭を持ち子育てすることを困難にしている社会体制にあるとも言えます。さらに近年、夫婦の子供の数が1.96人と2人を割り込んでおり、この減少傾向は続くことが予想されています。現状の出生率が続くと、2060年には人口は3分の2、生産人口は、ほぼ半減というシナリオも描かれています。



### 会派一同 申年一年 がんばります！



山岸喜昭 (副代表) 小島康晴 (副代表・副議長) 下沢順一郎 (代表) 竹内久幸 (相談役) 高橋 宏 (顧問)

荒井武志 (広報企画委員長) 吉川彰一 (財務委員長) 小林東一郎 (政務調査会長) 依田明善 (幹事長代理・政策審議会長) 石和 大 (幹事長)

花岡賢一 (副広報企画委員長) 寺沢功希 (副政務調査会長) 今井愛郎 (副広報企画委員長) 埋橋茂人 (副政策審議会長) 堀場秀孝 (副政務調査会長)

## 代表年頭ご挨拶

新年を迎え、さらなる県政発展・県民生活向上のため、会派一同決意を新たにしています。

昨年、ここ数年来課題の領土や主権、経済圏問題に加え強硬派による宗教対立など、国際情勢が節目の年であったと思います。

国内でも、新たな経済圏としてのTPPの大筋合意による影響懸念や、消費税の引き上げに伴う軽減税率問題、安保関連法案の成立など、重要課題が目白押しでもありました。

そのような中、県は、人生を楽しむことができる多様な働き方・暮らし方の創造

をはじめとする「人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」を決定しました。

私たちが会派は、「県政改革の理念を共有し、県政に常に新しい風を送り、未来の信州を創っていく」という基本理念のもと、先に知事に提出要望した「平成28年度の予算編成と当面の課題に関する提案書」をもとに、県民にわかりやすく簡素で効果的な県政運営のため、情報公開を一層推進し県民が参画しやすい県政を目指してまいります。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 11月定例県議会

# 1億4千万円余の補正予算、登山安全条例などを可決

### 補正予算のポイント

○「信州の山」の魅力や価値の発信 1306万円

○「信州の山」の魅力発信のため県内外への広報を実施、安全登山のガイドラインを策定、国民の祝日「山の日」記念全国大会(仮称)の支援

○福祉のまちづくりの推進 334万円

福祉のまちづくり周知用パンフレットの作成やパーキング・パーミット

制度の利用証等を作成

## 登山を安全に楽しもう！

### 「登山安全条例」の概要

○子育て支援の充実 998万円

国による「子育て支援パスポート」の協賛店舗の募集(2000店舗)

や事業の周知

○道路、河川の復旧 8000万円

台風等により被災した道路、河川の迅速な復旧工事を実施(道路の舗装修繕83か所、法面補修3か所、河川の護岸補修3か所)



浅間山(前掛山)に設置されているシェルター

県は、多くの登山者が長野県へ来訪し滞在してもらえようとするための「登山安全条例」を提案、県議会は、全会一致で可決しました。

主な内容は、登山道などの環境整備を図ること、火山噴火時

の避難計画づくりやシェルター等の避難施設の整備を県と市町村等が連携して取り組むことなどです。

また、遭難発生のおそれが高い山岳の登山道は「指定登山道」として登山計画書の届出が義務付けられ、施行日は平成28年7月1日になりました。

登山者の山岳保険への加入は、努力義務とされました。

## 「福祉のまちづくり条例」を一部改正

### 誰もが安心して行動できる社会に...

この一部改正条例は、いわゆるバリアフリー法の基準適合義務が生じる施設の対象を、公共性や障がい者等の利用度が高い施設について、現行の延べ床面積2000㎡以上を1000㎡以上へ拡大するほか、対象施設には県独自の整備基準を追加するものです。

また、障がい者や妊産婦等の方々の円滑な駐車場利用を促進するため、優先駐車区画の利用証交付

付などを行う「信州パーキング・パーミット制度」を導入することになりました。

## 議員提出の「信州の地酒で乾杯」条例案が可決成立

今後、多目的トイレへの大人用介護ベットの設置や、ホテル等の客室への障がい者用情報伝達設備の設置などの取り組みが期待されるところです。

県議会は、県内で造られる清酒やワイン、ビール、ジュースなどのノンアルコール飲料などでの「乾杯」を通じて、地域資源である地酒等の一層の普及を促進するため、「信州の地酒普及促進・乾杯条例」案を議員提出し、全会一致で可決しました。

県や事業者には積極的な取り組みを、県民の皆様には協力をお願いする内容になっています。

まずは地酒等で乾杯を健康に留意し飲酒運転をせず、楽しい酒席にしていきたいものです。